

第 48 回日本母性衛生学会

演題： 授乳期初期における直接母乳授乳と哺乳びん授乳の併用について

ピジョン株式会社 常総研究所
石丸あき、斉藤哲

本文：

【目的】

直母授乳の重要性が唱えられる中、産後 0~1 ヶ月における直母授乳（以下直母）と哺乳びん授乳との併用率は約 50%であることが報告されている。この併用について、授乳量や授乳時間等、併用状況の詳細については不明な点が残されている。そこで本研究は、授乳期初期における併用状況の詳細を解明することを目的とした。

【方法】

P 社モニター制度に登録している母親 48 名に対して電話にて授乳状況を確認し、直母のみ 15 名（31%）、併用 27 名（56%）、哺乳びん授乳のみ 6 名（13%）が得られ、哺乳びん使用者 33 名に質問紙調査を実施した。母親の平均年齢 30.6 歳、児の平均日齢 30.5 日（範囲：17-61）、女兒 19/男児 14、児の平均出生体重 2962g (SD=440) であった。

【結果・考察】

直母における 1 回の授乳時間は 18min48sec、哺乳びん授乳では 9min24sec、直母の方が有意に長いことが分かった ($p < .01$)。哺乳びん授乳における 1 回授乳量は約 86 ml であり、毎分 9.2ml のペースで哺乳していた。哺乳びん使用の「むせ」「口元からのミルクもれ」「ミルク戻し」の発生について調べた結果、「むせ」で 70%、「もれ」73%、「戻し」36%の発生率が得られた。今後、直母におけるこのような現象の発生率を調べ、併用についてさらに検討していく予定である。